

多発性骨髄腫研究助成 2013 年研究課題選考会総括

上記選考会を 2012 年 4 月 21 日名古屋安保ホールにて日本骨髄腫患者の会・副代表上甲 恭子様お立ち会いのもと、応募のあった基礎研究 5 題について各研究の「重要性・妥当性」「計画・方法の妥当性」「独創性・革新性」「波及効果・普遍性」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評点について、先ず 5 名の選考委員の各申請研究に対する講評を述べて戴いた上で意見交換を行い、事前に提出されていた評点結果を集計し、総合評価に対して更なる意見交換を行った上で、下記の研究課題を採択しました。

(基礎研究部門)

堀之内朗記念助成 久留米大学医学部 免疫・免疫治療学講座 笹田哲朗先生

「多発性骨髄腫に対する新規免疫療法の開発」

特別助成 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科 李政樹先生

「骨髄腫患者におけるボルテゾミブ獲得耐性に関与する分子病態の解明とその克服を目指した研究」

提案された基礎研究は、難治性疾患である多発性骨髄腫の薬剤耐性の克服に向けたものと新規治療法の開発に向けたもので、多発性骨髄腫治療の改善を目的とした基礎研究と臨床研究の共同歩調を認識させるものであり、今後の発展を大いに期待したいところであります。残念ながら今年度の臨床研究の応募はありませんでしたが、日本における臨床研究の活性化のためにも臨床現場で多発性骨髄腫と闘っておられる諸先生からの多数の応募があることを祈っております。

2012 年 4 月

日本骨髄腫患者の会研究助成 選考委員会委員長

日本骨髄腫学会理事長

清水 一之